

山口県小学生バレーボール連盟の主催試合時における 服装に関わる確認事項

山口県小学生バレーボール連盟
競技委員長 三隅 隆弘

A.ユニフォームについて

2023年度6人制競技規則（以下；競技規則）4.3.1 ジャージ、パンツ、ソックスの色とデザインはチームで統一されていなければならない。および2012年通達「ユニフォームについての基本的な考え」に沿って、規定しています（別紙1）。

- 1) 袖のないユニフォームは選手の安全性を配慮し禁止とする（2019年度小学生競技規則付則2）。
- 2) 上着はパンツに入れる（2012年年4月1日日小連通達）。
- 3) 番号の色と明るさはジャージと対照的でなければならない（2019年度競技規則4.3.3.1）。
同色で違う色での縁取りの番号やグラデーションの番号は不可（別紙2）。
- 4) チームネームはジャージ（シャツ）の胸部もしくは背部に、JVA-MRSに届け出たチームネームまたはそれを特定できる略称のいずれかを付けなければならない（2019年度競技要項）。
- 5) 番号は胸部が最小限10cm、背部が最小限15cmの高さ（小学生競技規則第2条-2）。
- 6) サポーター以外の選手に有利となる可能性のあるものの着用禁止（競技規則4.5.1）。
- 7) ユニフォームの襟、袖、裾からアンダーウェアがはみ出してはいけない（2019年度競技要項）。
- 8) 県名は袖に付けることができるがチーム名より小さい（高さが低い）こと（別紙2）。

「同じ色パターン」について

今流行の切替しデザインに対して、同じ色とパターンと言う事です。同じ色（ネイビー、紺...等）なら問題ありません。製造年による色味の違い、経年劣化（色あせ）によるものが考えられますが、「明らかに」というものでなければ問題ありません。

「混合チームのユニフォーム」について

平成30年2月4日付け、「男女混合チーム取り扱い確認事項」より
ユニフォームは同じチーム名で男女が異なるユニフォームを着用する。
もしくは男女同一ユニフォームとする。その際、男子には識別バンドを着用させる。
なお、識別バンドはチームで用意する。
トスの際に審判と記録員が該当者の全員着用の確認を完了したらプロトコールを開始する。

B.スタッフの服装について

競技規則付則の6および県決勝大会競技上の確認事項より、

「監督、コーチ、マネージャーはマークを必ず左胸につけ、統一した服装で（襟付きのシャツ着用。短パン、キュロットは不可。ライン、ロゴ等も統一）ベンチ入りする事。ただし、統一された服装であっても、スタッフの数名が脱ぐ場合に下に着るポロシャツ等は統一しなければならない。」

- 1) 襟付きのシャツはパンツに入れる。
- 2) 襟付きのシャツの襟や袖からアンダーウェアがはみ出してはいけない。
- 3) 小学生がスタッフになる場合Tシャツ・短パンでも良い。
但し、他のスタッフと上着とパンツの色に近いものにする。

「防寒着について」（平成29年度新人大会県決勝大会競技上の確認事項5-(2)-①より）

試合開始時と終了時の挨拶の際は、防寒着を脱いで下さい。
挨拶の際に脱いでいる物が防寒着で、それ以外の服装は全て統一されている事。

「試合中の通信機器の使用について」（2009年通達；別紙3）

止むを得ず選手の安全や健康管理上の観点から使用する場合を除き、ベンチにおいて使用を禁止します。

2012

ユニホームについての基本的な考え

日本小学生バレーボール連盟
理事長 工藤 憲
審判委員長 山田 道人

日本小学生バレーボール連盟の根本の考えは、バレーボールを通して子どもたちの健全育成にあります。全てのことがらがこの子どもたちの健全育成を基に行われており、ユニホームの問題も例外ではありません。ユニホームの問題で具体的に言いますと、子どもたちの安全・安心を確保し、正しい価値観を伝えていくという考えに立脚しています。

1. 「ノースリーブ」のユニホームに関して

ノースリーブのユニホームに関して、本連盟では「着用は好ましくない」と伝えております。その理由としては、まず、肌の露出部分を多くすることで擦り傷等の危険が高まります。更に、露出度が多くなることで、これまでも後を絶たない「盗撮」が増えていくのではないかと危惧もあります。

更に、小学生段階ではノースリーブにすることによりパフォーマンスが著しく向上するとも考えていません。

以上のことから、本連盟では「好ましくない」と通達しております。

2. ユニホームの上着をパンツの上に出すことについて

このことについては、本連盟では認めておりません。つまり、しっかりとパンツの中に入れるように指導しています。

理由としては、小学生チームのユニホームは多くがチーム備品であり選手の体にフィットしているものではありません。そのようなユニホームをパンツの外に出してプレイすることは見た目もよくありませんし、パフォーマンスにも影響することが予想されます。また、体にフィットしているものであると逆にジャンプなどのたびにおへそ等の肌が露出したりし、ノースリーブの場合と同様のリスクが生じると考えております。

3. 背番号等を地の色と対象に

このことは、ルールブックに明記されているのですが、近年、デザイン重視なのでしょうかなかなか背番号等が見えにくいものが増えてきています。

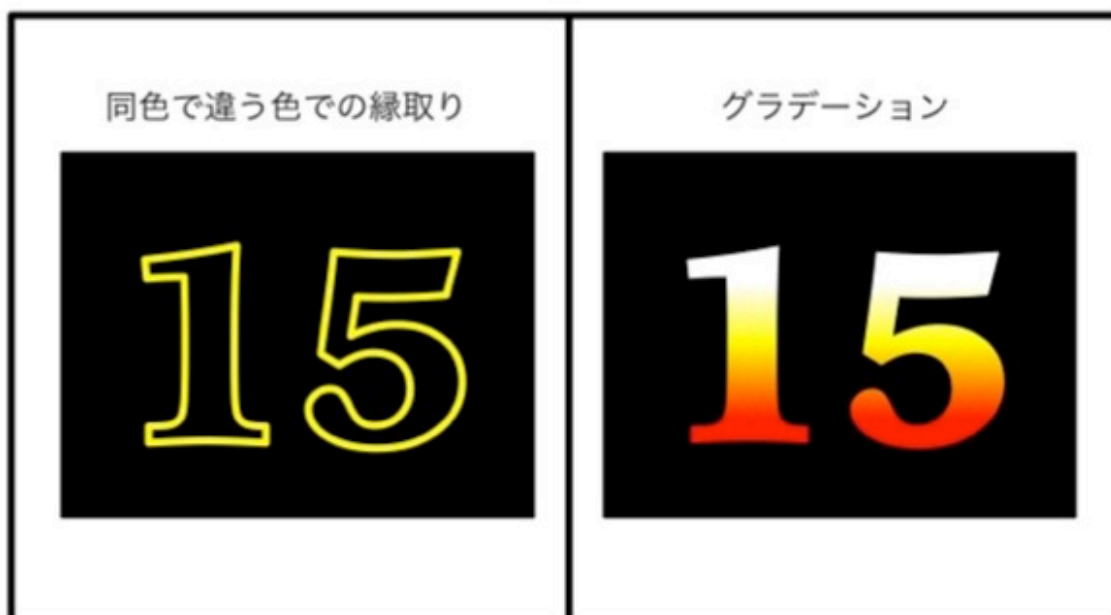
全ての子どもたちや関係する大人がみな同じような視力ではないということです。

緑と黄色が識別しにくい子どもたちもいますし、大人は年齢によってその差が大きくなると思います。おしゃれではなく、誰もが見やすいユニホームを着用するよう、本連盟では指導しています。

4. その他

原則はルールに則って決めています。子どもの体を守るサポーター以外の不必要なものを身につけることは禁止しています。

以上が小学生連盟としてのユニホームに関しての基本的な考えです。



認められないユニフォームの番号の色と明るさの例

※2019年度競技規則4.3.3.1
番号の色と明るさは、ジャージと対照的でなければならない。



県名表示について

県名は袖に付けることができるが、
チーム名より小さい（高さが低い）こと。

2019年度競技要項；ユニフォーム規定5.チームネーム(2)

20091206

都道府県小学生バレーボール連盟
理事長各位

日本小学生バレーボール連盟
会 長 山崎 宣夫
理事長 工藤 憲

試合中の携帯電話やトランシーバー等の通信機器の使用について

上記、標題につきまして、御連絡いたします。

携帯電話やトランシーバー等の通信機器を、試合中に使用するチームが見られます。指導者が携帯電話やトランシーバー等の通信機器を試合中に使用することは、小学生バレーボールの指導者として、良いマナーとは考えておりません。

日本小学生バレーボール連盟としては、試合中に携帯電話やトランシーバー等の通信機器の使用について、下記のように取り扱うこととしますので、関係各位への周知をお願いいたします。

記

1. 取り扱い

試合中の携帯電話やトランシーバー等の通信機器の使用は、止むを得ず選手の安全や健康管理上の観点から使用する場合を除き、ベンチにおいて使用を禁止します。使用した場合は、6人制競技規則第21条に従い、罰則の対象とします。

以 上